

## 「新型インフルエンザワクチン（A/H1N1）の接種について（素案）」について

社団法人 全国腎臓病協議会  
東京都豊島区巢鴨 1-20-9  
巢鴨ファーストビル 3F

### はじめに

私たちは腎疾患患者とりわけ透析患者として、「患者の命と暮らしを守る」をスローガンに掲げ、社会保障の充実と安心して医療が受けられる環境づくりに取り組んできた。今回、患者の安全・安心と医薬品の安全性の確保のために行政は何を行うべきかという問題意識で意見を述べる。

#### 1. 新型インフルエンザ対策における予防接種の位置づけについて

素案において、新型インフルエンザ対策における予防接種の目的を明確にしている点およびその内容について、更に予防接種の限界をも明示していることに患者会として同意するものである。ただ、素案にも書かれているが、新型インフルエンザ対策は予防接種のみではなく、公衆衛生対策や抗インフルエンザ薬の投与などの複数の対策を組み合わせる進められなくてはならない。新型インフルエンザ対策全体の構築を急いでいただきたい。

#### 2. ワクチン接種について

優先接種の必要性和対象者についての考え方は妥当なもので、とりわけ優先接種の対象とする基礎疾患を有する者に腎疾患患者を含めていることに患者は安心すると思われる。ただ、もっとも優先される「インフルエンザ患者の診療に従事する医療従事者」については臨床工学技士や事務職員等を含めた広い範囲で考えるべきである。また「腎疾患」患者に腎臓移植者や末期腎不全ではない慢性腎臓病患者（CKDステージ3または4で接種が医学的に問題でないもの）を含めるべきである。

#### 3. ワクチンの確保について

国内産ワクチンの確保については、どのような流行の仕方をするか不明であったとはいえ、なぜ確保できるワクチン量が限られてしまったのか、その検証が必要である。「予想できなかった」という意見交換会での説明では、国民の納得は得られない。輸入ワクチンについては、参考資料があるがやはり不安が払拭されていない。アジュバンド使用である点と鶏卵培養ではなく細胞培養である点について、素案には「事前に更なる確認を行う」とあるが、十分な上にも十分な確認を行うと共に国民に情報公開をするべきである。

#### 4. 留意事項について

健康被害の救済について「適切な救済措置を講ずる」となっているが、その具体的内容を明らかし、万一の場合でも国民が安心できるようにするべきである。さらに「積極的な情報開示と情報提供を行う」としているが、そのような姿勢・方針を述べるだけでなく、行政への不審が払拭されるような具体的な取組みが今こそ必要である。

#### 5. 終わりに

ワクチン接種に関しては、費用負担の問題がある。新型インフルエンザワクチンは基本的に自己負担といわれている。低所得者については公的補助は不可欠であると考え。さらにその接種場所も問題である。透析患者は標準的に週3回の通院が必要である。通院に介護が必要な患者も多くなっている。透析施設での接種を望む。さらに透析患者には、新型インフルエンザワクチンだけでなく、季節性インフルエンザワクチンの接種や肺炎球菌ワクチンの接種が望ましい高齢患者が多い。それらのワクチンとの同時接種の是非を明確にし、それらのワクチンの確保をしていただきたい。

以上